

**水辺の魅力を活用した都市空間リノベーション社会実験業務委託プロポーザル  
質問回答一覧**

項目	質問内容	回答
7プロポーザルの手続き等 (3)企画提案書の提出 ウ企画提案内容	R7社会実験の結果を教えてください。(広報手法、一般参加者数、参加した民間事業者の数・実施内容、アンケート結果(あれば))	令和7年度発注業務の水辺の魅力を活用した都市空間リノベーション検討業務委託における社会実験については、9月の「長月桜祭り」、10月の「かごしまの風と光のナポリ祭」、1月及び2月の冬のアウトドアダイニングが挙げられます。その結果については別紙のとおりです。
仕様書 2業務内容 (2)社会実験の検討・実施 ア年間計画(案)の作成	オープン化等を見据えた組織体制(準備会・検討会、3回開催予定)について、準備会・検討会の開催運営も含まれますでしょうか?	オープン化等を見据えた組織体制(準備会・検討会、3回開催予定)を検討するに当たって実施する準備会・検討会の開催運営については、別途発注する水辺の魅力を活用した都市空間リノベーション河川管理評価等検討業務委託における業務内容であります。
仕様書 2業務内容 (2)社会実験の検討・実施 ア年間計画(案)の作成	オープン化等を見据えた組織体制(準備会・検討会、3回開催予定)について、準備会・検討会の委員数をお教えください。	当該準備会・検討会の委員数については、別途発注する水辺の魅力を活用した都市空間リノベーション社会実験業務委託における提案者からの企画内容を参考にして構成することとしています。
提出様式10 業務実施体制調書	社会実験の資機材設置作業は、再委託可能でしょうか?	再委託可能です。
提出様式10 業務実施体制調書	「再委託先、技術協力先」は、提案書提出までに確定する必要がありますでしょうか?	提案書提出までに確定する必要はありませんが、提出様式10「業務実施体制調書」において、業務実施体制を具体的に示す必要があることから、提案書提出までに、その体制を調整しておく必要があります。



# 甲突川における社会実験の実施状況（第3弾）

- 民間事業者等が事業展開するにあたり、事業活動の採算性や地域のニーズ等を把握するための社会実験第3弾を実施。
- 河川空間のみを活用して、**民間事業者運営の冬のアウトドアダイニング（約60畳の川床）を開催。**  
※ 令和8年1月31日、2月1日の開催のうち、31日にはリバークルーズを実施。
- 桜島などの雄大な景観や、水辺の開放感、また冬の川の季節感を味わいながら、温かい飲食を楽しむなど**非日常感を体験する機会を来場者が堪能。**（約700人の来場）
- 来場者や、出店した民間事業者へ、本社会実験に対するアンケート調査を実施。

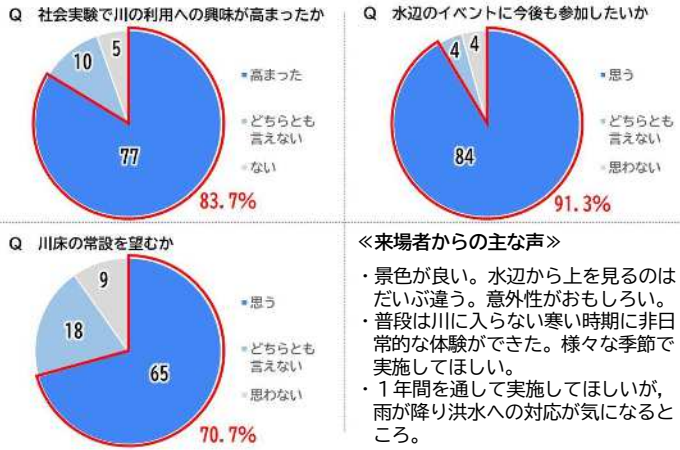
社会実験第3弾 冬のアウトドアダイニング実施状況



## 社会実験第3弾の結果と今後の事業の方向性

- 約700名に来場いただき、非日常的な空間を体験。（アンケート回答数92）  
【主なアンケート項目】
  - ★ 川の利用に対する興味が高まった⇒**83.7%**（第1・2弾に比べ+16.3%）
  - ★ 川床等の水辺のイベントに今後参加したいと思う⇒**91.3%**（第1・2弾に比べ+8.7%）
  - ★ 川床を常設してほしいと思う⇒**70.7%**（第1・2弾に比べ+1.1%）
- 民間事業者による事業活動の採算性があることを確認。（今後のイベントでの出店を希望する多数の声あり。）
- 冬季を含む、通年で利活用の可能性を把握。

社会実験 第3弾の来場者アンケート結果【回答数92】 抜粋



民間事業者へのヒアリング結果（6社）

○採算性や今後の意欲等についての調査結果

社名	出店期間	経費①	売上②	収益②-①	河川利用の意欲	次回イベント参加
A社	1日間	10千円	40千円	30千円	高まった	希望
B社	2日間	80千円	330千円	250千円	高まった	希望
C社	2日間	55千円	100千円	45千円	高まった	希望
D社	2日間	50千円	220千円	170千円	高まった	希望
E社	2日間	未回答	150千円	—	高まった	希望
F社	2日間	15千円	85千円	70千円	高まった	希望

※経費は原材料費や人件費等であり、各経営者が把握した支出金額を記載

○民間事業者からの主な声

- ・桜島の風景が見えるから気持ちいい。
- ・こういう風に、水辺に場所を作るだけでお客さんが居るのが新鮮。
- ・別の機会でも出店したい。
- ・もう少し期間を長く実施してほしい。

- 今後の方向性
- 今回の社会実験の実施により、河川空間を生かした魅力創出への期待は実感できるが、民間事業者が、自立的・自発的に取り組める体制を確立していくためには、継続した社会実験による知見の蓄積が必要。（民間事業者の採算性検証が必要）
  - 河川の安全性を確保しながら、効率的・効果的な維持管理に繋がるよう、専門的知見を踏まえ、川床の常設を視野に入れた取組の検討が必要。
  - 地域が一体となった取組となるよう、民間事業者だけでなく、県及び市が連携した河川占用に係る組織体制の検討が必要。